■ ■ ■ 取 扱 説 明 書 ■ ■ ■

デジタルインバーター直流溶接機

単相 200V専用

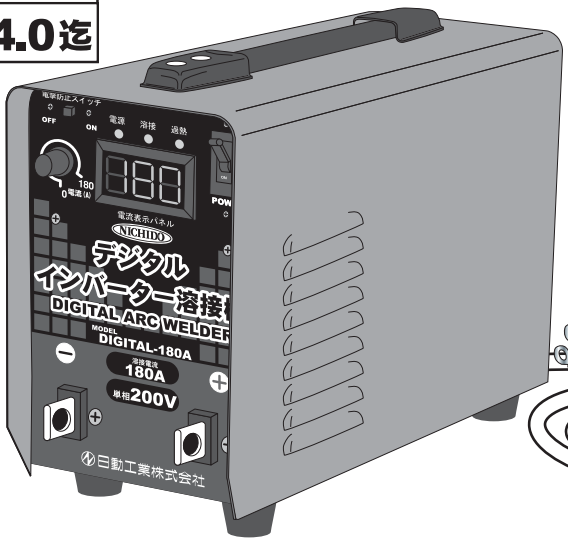
9.6KVA	6.5KW
使用率 50%	φ4.0迄

デジタル表示で正確な溶接電流設定ができ、らくらく溶接!

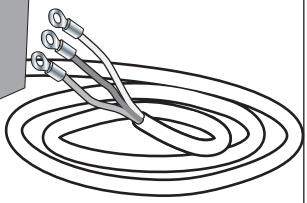
最大溶接電流 **180A**

■型式
DIGITAL -180A

■重量
13.0kg



●電線/ 4.0mm²×3芯×3m



使用状態表示ランプ

電 源	電源ランプ
溶 接	電防(入)溶接時に点灯します 電防(切)常時点灯します
過 熱	使い過ぎた場合に点灯 (温度が下がれば消灯、使用できます)

■別売オプション部品

アダプター(端子+メスジョイント付) ●**NA-J03** (端子ネジM8用 φ8㎜)

ホルダ用(オスジョイント付) ●**NA-HJ5**(5m) ●**NA-HJ10**(10m)

アース用(オスジョイント付) ●**NA-EJ5**(5m) ●**NA-EJ10**(10m)

200Vインバーター直流溶接機 ■入力／単相200V 圧着端子

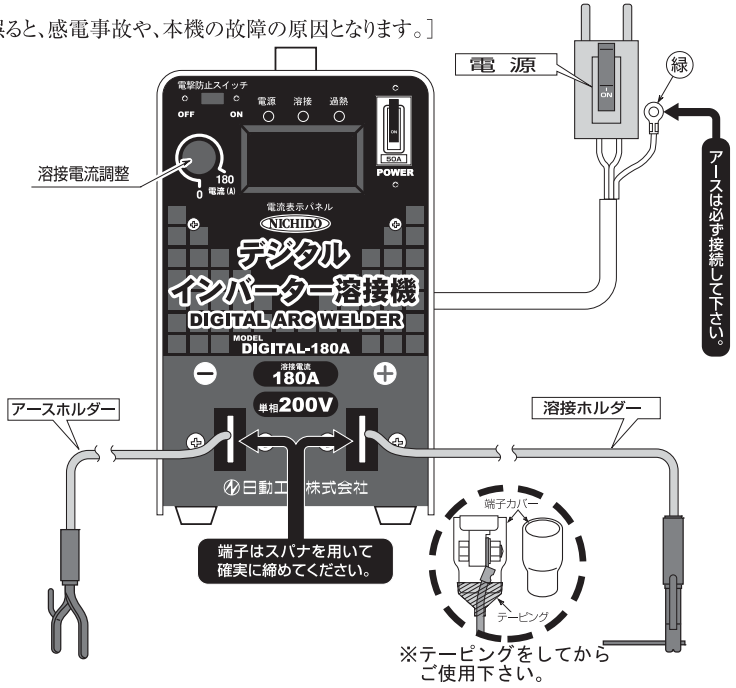
定格入力電圧	周波数	定格入力容量	負荷電圧	無負荷電圧	定格使用率 (MAX)	寸 法	重量
単相 200V (180～220V)	50／60Hz	9.6KVA 6.5KW	28-30V	入… 24V 切… 77V	50% (180A)	巾150×高280×奥420	13.0kg

●ご使用の前に、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。
●ここに示す注意事項は、溶接機を安全にご使用いただき、直接に操作される人及び周囲の人々への危険、損害を未然に防止する為のものです。

日動工業株式会社

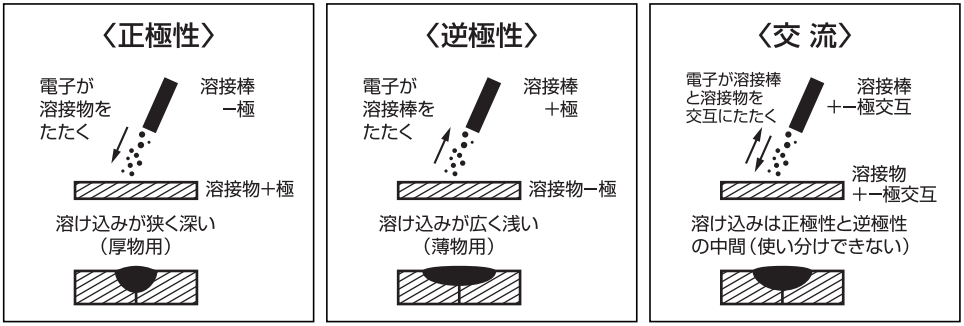
電源電線や溶接ケーブル・アースケーブルの接続

［接続方法を誤ると、感電事故や、本機の故障の原因となります。］



正極性と逆極性

電気の正体は電子の流れで、電気とは逆に−極から+極へ流れます。このため直流でアークを発生させると+極側の方は電子にたたかれるため、−極に比べて溶けかたが遅くなります。
これを応用して**+極側を溶接物（母材）、−極を溶接棒**に接続し（この接続を**正極性**と言う）深い溶け込みを**厚板溶接**に用いる。または**−極を溶接物（母体）、+極を溶接棒**に接続し（この接続を**逆極性**と言う）浅い溶け込みを**薄板溶接**に用いる、といった使い分けがされます。
また交流アーク溶接は+極と−極が一秒間に50回（60Hz地方では60回）交互に切れ換わりますので、正極性、逆極性の使い分けはできず溶け込みも正極性と逆極性の中間になります。



インバーター直流溶接機

溶接機の設置、および使用上の注意

〈溶接機の設置場所〉

屋内の湿気やほこりが少ない場所に設置してください。また、直射日光や雨にさらされず、周囲温度は−10～40℃の範囲である場所に設置してください。特に溶接機の後部側は、冷却用ファンが取り付けられていますので、通気性の良い場所へ設置してください。

〈設備容量など〉

- エンジン発電機をご使用になる場合は、溶接機定格入力（KVA）の2倍以上のものをご使用ください。
- 溶接機用の入力開閉器は、溶接機1台毎に開閉器を設置してください。

電撃防止機能（スイッチ切替式）

200V溶接機に標準装備

交流アーク溶接機には、電撃防止装置の取付けの義務が［労働安全衛生法第332条］で決められています。
直流アーク溶接機には取付けの義務はありませんが、より［安全］に使用して頂くために電撃防止装置を取付けています。
［電撃防止装置の意味］
溶接ホルダーとアースホルダー間に出力される電圧による感電を防止するもので、特に高所作業において電撃による転落等を防止するために溶接休止時の出力電圧を35V以下に切り替える機能です。

〈DIGITAL−180A前面〉

※電撃防止装置は溶接機の使用環境に応じて［ON OFF］をスイッチで切替え可能な自主選択方式です。

［ ON ］電撃防止機能となります。
［ OFF ］電撃防止機能は解除され作動しません。

デジタルパネル

- 溶接電流は、デジタルパネルに表示されより正確で細かな設定が出来ます。
- DIGITAL−180Aの最大溶接電流及びデジタルパネル表示は180Aです。
- 一次線、母材の状態によりずれが生じる場合があります。

溶接電流の目安とブレーカ容量

■溶接棒の太さに対する加工板厚と溶接電流の目安

溶接棒太さ	φ1.6	φ2.0	φ2.6	φ3.2	φ4.0	φ5.0
溶接電流の範囲	20A〜45A	30A〜60A	60A〜100A	100A〜140A	140A〜190A	190A〜250A
加工板厚	3㎜迄	4㎜迄	5㎜迄	7㎜迄	10㎜迄	16㎜迄

■溶接電流に対する入力側ブレーカ容量

溶接電流	40A	80A	120A	160A	180A	230A
入力側ブレーカ	→ 10A → 15A → 20A → 30A →		→ 50A →	60A →	75A	

溶接棒と溶接電流は、溶接棒の種類や溶接棒の角度で異なりますので、ご注意ください。］

⚠ 危険

※取扱いを誤った場合に、危険な状態が起る可能性があり、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。

■感電をさける為に必ず以下のことをお守りください。

- 入力側コードにある接地用線から確実にアース（接地）を取ってください。
- ケーブルは、容量不足のものや、絶縁被覆が損傷して導体がむきだしになったものを使用しないでください。感電の原因となります。
- ケーブルの端子ネジは、確実に締め付けてください。締め付けが不完全な場合は局部発熱を起こし、端子部やケーブルを損傷する原因になります。また接続部分を絶縁してください。
- 保守点検を定期的に行い、損傷した部分は、ただちに使用中止し修理してから使用してください。
- 使用しない時は、開閉器の電源を切ってください。
- 屋内型です。屋外、雨中、濡れた所、また溶接機内部に水や油が入りやすい場所では使用しないでください。感電する原因となります。

- ガス中毒や窒息を防止する為に作業場所の換気に注意してください。法規（労働安全衛生法、粉塵障害防止規則）で定められた局所排気設備を使用するか、空気呼吸器を使用してください。
- 狭い場所での溶接は、必ず十分な換気を行ってください。
- スパッタや溶接直後の熱い母材は火災の原因になります。
- ガソリンなどの可燃物が内部に入った容器にアークを発生させると爆発することがあります。
- 内部にガスが入ったガス管や、密閉された容器やパイプなどを溶接すると、破裂することがあります。
- 飛散するスパッタが可燃物に当たらないように、可燃物を取り除いてから作業してください。取り除けない場合は、不燃性のカバーで覆ってください。
- 可燃性のガスの近くでは、溶接しないでください。
- 溶接直後の熱い母材を可燃物に近づけないでください
- 母材側への接続ケーブルは、できるだけ溶接する箇所の近くに接続してください。
- 溶接作業場所の近くには、消火器を配置して万一の場合に備えてください。

⚠ 注意

※取扱いを誤った場合に、危険な状態が起る可能性があり、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合。

- アークの光を直視しないでください。しゃ光めがね、または溶接用保護面を使用してください。
- 使用の際は、落下や転倒の恐れのない安定した所に設置してください。
- 鉄粉や、ゴミ油などの飛来しない所に設置してください。
- 電線は、人や運搬車などで直接踏まれる所では、使用しないでください。（やむをえず、使用する場合は、電線をプロテクター等で保護をしてください。）
- 電源電線や、溶接アダプター、アースアダプターの接続部はネジを確実に締め付けてください。（完全でない場合は接続不良の原因となり発熱します。）
- 溶接アダプター、アースアダプターの接続部分は付属の端子カバーを用いて絶縁保護を行ってください。
- 電線を強く引っ張らないでください、断線やショートの原因となります。
- 溶接の際は、溶接棒からガスが発生します。換気を良くしてください。
- 電圧が低い場合や、電圧が高い場合は能力が落ちたり本機の故障原因となります。［入力電線を延長する場合、電工ドラムは3.5㎟以上の電線を使用してください。］

※入力電線の延長距離が延びると電圧降下により溶接能力が落ちます。

● 製品の改良の為、仕様などを予告なく変更する事があります。

発売元 日動工業株式会社

本社・工場 〒570-0002 大阪府守口市佐太中町6丁目47番7号 TEL.06（6905）6905㈹ FAX.06（6905）9788
京都工場 〒613-0023 京都府久世郡久御山町野村字村東148-3 TEL.075（631）0208㈹ FAX.075（631）3950
札幌営業所 〒003-0822 札幌市白石区菊水元町二条2丁目3番1号 TEL.011（871）0577㈹ FAX.011（871）0579
東京営業所 〒135-0016 東京都江東区東陽4丁目8番14号 TEL.03（5683）4010㈹ FAX.03（5683）4021
名古屋営業所 〒454-0922 名古屋市中川区荒中町999番地 TEL.052（351）3666㈹ FAX.052（352）7558
大阪営業所 〒570-0002 大阪府守口市佐太中町6丁目47番7号 TEL.06（6905）6905㈹ FAX.06（6905）9788
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南4丁目16番14号 TEL.092（474）7955㈹ FAX.092（474）6329

2008.12-19-DIGITAL-180A